京土会「学生・若手会員研修助成基金」報告書

1. 申請者情報

申請年度・回：令和 5 年度第 2 回

氏名：後藤　崇文

所属・学年：社会基盤工学専攻　応用力学講座・D3

渡航先：ドイツ（ベルリン）

2. 活動報告

申請者は 6 月 17 日から 6 月 20 日にわたってドイツのベルリンで開催された 18th International SPHERIC Workshop に参加し，研究発表を行った．

本 Workshop は，Lagrange 型の連続体計算の代表的手法である SPH 法に関する国際会議である．今回も欧米を中心とする SPH 法の先端的研究者が一堂に会し，物理現象の高精度シミュレーションのための新たなスキームの提案から実際の土木工学問題への適用結果に至るまで様々な発表がなされ，活発な議論が行われた．自身もできる限り多くの発表を聴くとともに，自ら質問も行うことで議論に参加して知見を深めるように努めることができた．

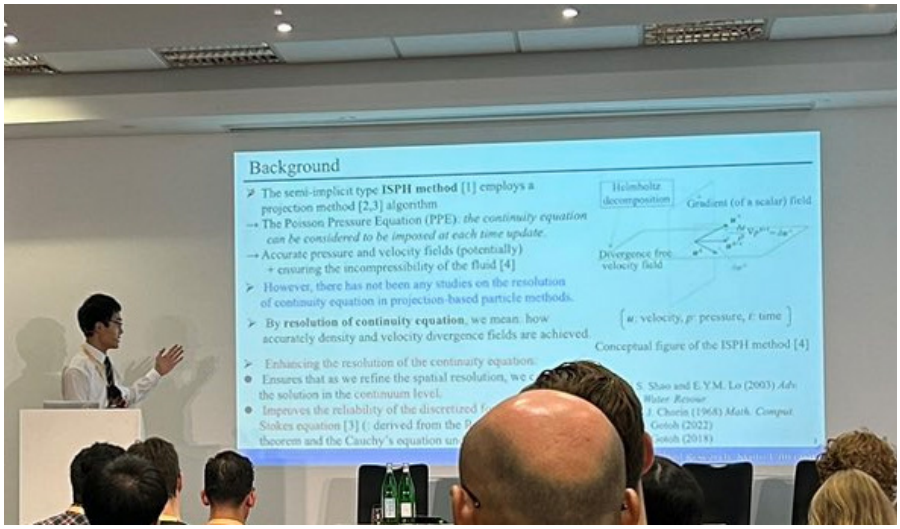
自身の発表内容は，粒子法の離散化で問題となる質量保存性を厳密化する新しいスキームの提案であり，土木構造物の数値設計の信頼性向上への寄与も期待されるものである．申請者の発表は参加者の注目を集め，様々な質問を受けたが，質問には自信をもって回答することができたと感じている．

今回は自身初の海外での研究発表であることに加え，実は行きの航空便が 1 日以上遅延し，18 日にある自身の発表になんとか間に合うか，という状況で会場入りしたのであったが，無事に発表を終えることができ，安心した．

また，Workshop では複数の休憩時間や会食の機会が設けられており，多くの研究者と顔なじみになるとともに，SPH 法の著名な研究者とも懇談することができた．今後，今回築いた関係を大事にするとともにさらに広げて，自身の研究のさらなる発展につなげたい．

3. おわりに

このたび申請者の海外研修にご助成いただいた京都大学土木会に深い感謝の意を表します．



発表時の様子

会場前にて